

平成28年度資源評価報告書(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成28年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 ウマヅラハギ

学名 *Thamnaconus modestus*

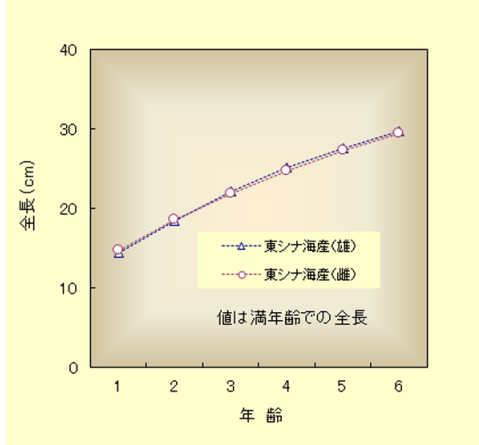
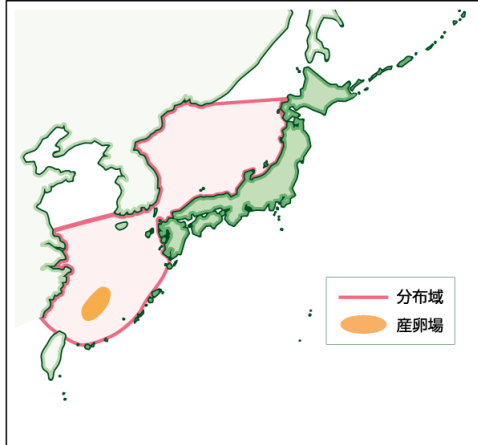
系群名 日本海・東シナ海系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命： 10歳程度
成熟開始年齢： 雌は2歳（56%）、4歳以上（90～100%）、雄は不明
産卵期・産卵場： 4～6月、魚釣島周辺海域、日本・中国・韓国の沿岸
食性： カイアシ類、貝類、エビ・カニ類、魚類、ヨコエビ類、ウニ類、ヒトデ類、ヒドロ虫類、鉢クラゲ類、珪藻類および紅藻類
捕食者： 不明

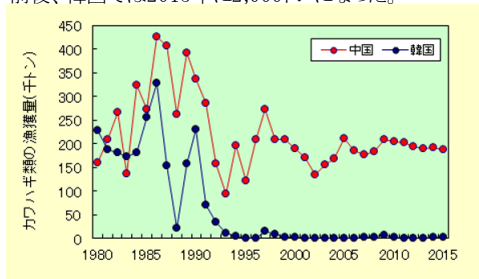
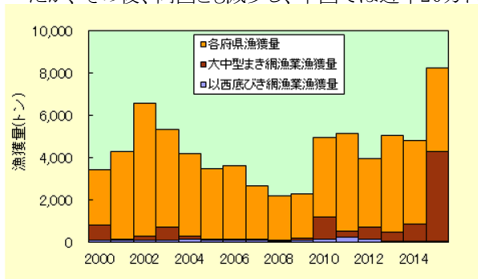


漁業の特徴

我が国沿岸域では本種を専獲する漁船漁業はなく、各種底びき網漁業、まき網漁業による混獲や沿岸の定置網等によって利用されている。水揚げ量の多い石川県では、定置網や刺網による漁獲量が多い。東シナ海において中国・韓国により多獲されている。

漁獲の動向

本資源は漁獲統計が整備されていないため、我が国沿岸における各府県の水揚げ量、以西底びき網漁業による漁獲量、大中型まき網漁業による漁獲量の和を我が国の漁獲量とした。我が国の漁獲量は2002年に計6,600トンであったが徐々に減少し、2008、2009年には2,200、2,300トンまで減少した。これ以降は4,000トン前後で推移していたが、2015年は大中型まき網漁業が例年になく漁獲努力量を振り向けたため、8,200トンと急増した。中国と韓国のカワハギ類の漁獲量(ウマヅラハギが大半であると考えられる)は最盛期(1986年)にはそれぞれ43万トン、33万トンであったが、その後、両国とも減少し、中国では近年20万トン前後、韓国では2015年に2,000トンになった。



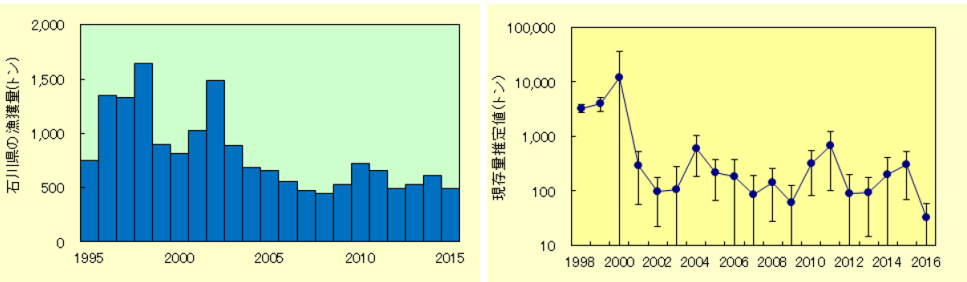
資源評価法

漁獲量から資源水準および経年変動傾向を検討した。なお、大中型まき網漁業による2015年の漁獲は資源動向を反映したものではないため、本漁業による漁獲量は動向判断に用いた漁獲量に含めていない。その他、石川県における漁獲量と体長組成、東シナ海陸棚縁辺域の広域において行った着底トロール調査による現存量推定値も動向判断の参考とした。

資源状態

本系群は中国と韓国が主に漁獲している東シナ海に分布の中心があると考えられる。両国によるカワハギ類の漁獲量は、1990年代以降低い値で推移していることから、東シナ海における資源は近年低水準にあると判断される。我が国におけるウマヅラハギの漁獲量の長期変動は明らかでないが、資源の中心となる東シナ海における資源水準に準じ、本系群の資源水準は低位と判断した。また、我が国沿岸における各府県の水揚げ量と以西底びき網漁業の漁獲量の和および石川県の漁獲量の動向が横ばいで、着底トロール調査の現存量推定値にも増加傾向は認められないことから、動向は横ばいと判断される。





管理方策

本資源は外国による漁獲の割合が大きいこと、我が国の漁業の主体である定置網漁業が本種を積極的に漁獲する漁法でないため我が国の漁業が資源全体に与える影響は小さいと考えられることから、我が国の漁獲量の変動傾向に合わせて漁獲を行うことを管理方策としてABCを算定した。資源全体の資源評価および資源管理にあたっては関係各国の協力が不可欠である。

管理基準	Target/Limit	F 値	漁獲割合 (%)	2017年ABC (百トン)	Blimit=
					親魚量5年後 (百トン)
1.0・Cave3-yr・0.96	Target	—	—	32	—
	Limit	—	—	41	—

- Limitは、管理基準の下で許容される最大レベルの漁獲量、Targetは、資源変動の可能性やデータ誤差に起因する評価の不確実性を考慮し、管理基準の下でより安定的な資源の維持が期待される漁獲量
- ABC算定規則2-2) によって、ABCは $ABClimit = \delta_2 \cdot Cave3-yr \cdot \gamma_2$ 、 $ABCtarget = ABClimit \cdot \alpha$ とし、 α は標準値0.8を用いた
- γ_2 は、 $\gamma_2 = 1 + k(b/I)$ で計算をし、kは係数(標準値の0.5)、b(-296.5)とI(4,203)は漁獲量の傾きと平均値(直近3年間(2013～2015年))である
- 本資源は外国による漁獲の割合が大きく、また我が国の漁業の主体である定置網漁業が本種を積極的に漁獲する漁法でないため、我が国の漁業が資源全体に与える影響は小さいと考えられる。このため δ_2 は1.0とした
- ABCは我が国漁業による外国水域での漁獲量を含み、外国漁業による我が国水域での漁獲量および大中型まき網漁業による漁獲量を含まない

資源評価のまとめ

- 中国と韓国のカワハギ類の漁獲量(ウマヅラハギが大半であると考えられる)は、1990年代以降低い値で推移しており、東シナ海を主分布域とする本資源は近年低水準にあると判断される
- 我が国周辺における長期的な資源の変動は不明であるが、資源の中心となる東シナ海における資源水準に準じ、本系群の資源水準を低位と判断した
- 例年のない漁獲努力量が振り向けられた大中型まき網漁業による漁獲を除けば、漁獲量の動向が横ばいで、着底トロール調査による現存量推定値にも増加傾向は認められないため、動向は横ばいと判断される

管理方策のまとめ

- 我が国の漁獲量の変動傾向に合わせて漁獲を行うことを管理方策として2017年ABCを算定した
- 資源評価および資源管理にあたっては関係各国の協力が不可欠である

執筆者: 酒井 猛・佐々千由紀

資源評価は毎年更新されます。